

道 徳 科 学 習 指 導 案

令和 年 月 日 () 第 校時 4 年 組 指導者 各担任

1 主題名 仲よしでも 内容項目 B - (11) 相互理解、寛容

2 教材名 「わかっているはずだから」(出典：小学道德 生きる力)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人の考えは多様であり、それぞれの考えを生かすことが豊かな社会を作る原動力にもなる。そのため、多様さを相互に認め合い、理解しながら高め合う関係を築くことが必要である。異なった意見や立場を互いに尊重し、よりよい人間関係を築くことができるように、自分の思いや考えを伝えるとともに、広い心で互いの意見を受け止めようとする意欲を育てたい。

(2) 児童の実態について(男子 名 女子 名 計 名)

省略

(3) 教材について

本教材は、さくらと真由は仲よしだからこそ、相手のことを自分と同化して考え、自分の都合のよいように期待していた結果、誤解から思いがすれ違い、けんかの要因となった。二人は思いを伝え合い、相手の考えを聞き合うことで、互いの思いや考えに対する理解が足りなかったことに気付くことができた。二人が自分勝手な誤解から、相互理解へと関係を変容させていく過程を通して、よりよい人間関係を築くために必要なことを考えさせ、自分の意見や考えを相手に伝えるとともに、自分と異なる考えや意見も寛容的に受け止めることの大切さに気付かせたい。

4 指導方針

本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつために

- ・導入では、児童にとって身近なクラスの友達と理解し合えなかったときどうするか問うことで、自分の一方的な理解や納得のさせ方を出させ、本時の内容を自分事として捉えられるようにする。
- ・人権の学びについての補助発問をすることで、学びをつなげた問題意識がもてるようにする。
教材を通して、本時で扱う道徳的価値の追求を行うために
- ・さくらと真由の心情の移り変わりを板書で視覚化して、二人が互いに理解し合っていく様子が分かるようにする。
- ・中心発問では、二人が顔を見合わせて笑えるようになった根拠について考えることで、自分の意見や考えを伝えることのよさについて深く考えられるようにする。
- ・全体交流の場面で、「理解し合えたから笑えた」という意見に対して、「友達でも意見が違ったら理解できるかな」と問うことで、互いに理解することのよさについて深く考えられるようにする。
- ・交流を通して自分と違った意見は、ワークシートに整理し、自分の考えと比較することで、多面的・多角的に意見を捉えられるようにする。
- ・めあてについてももう一度考えることで、互いが理解し合うために大切なことを全体で共有し、道徳的価値の自覚を深められるようにする。
本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために
- ・道徳的価値の自覚を促し、実生活の中で生かすために大切にしたい考えを問うことで、互いに分かり合うために、「自分の意見や考えを伝えること」「相手の思っていることを知り分かってあげること」を意識して生活できるよう実践意欲を高める。

5 本時の展開

(1) ねらい

さくらと真由が互いの考えを伝え合い、理解し合うまでの思いを考えることを通して、自分の意見や考えを相手に伝えるとともに、自分と異なる考えや意見も理解しようとする実践意欲を高める。

(2) 準備

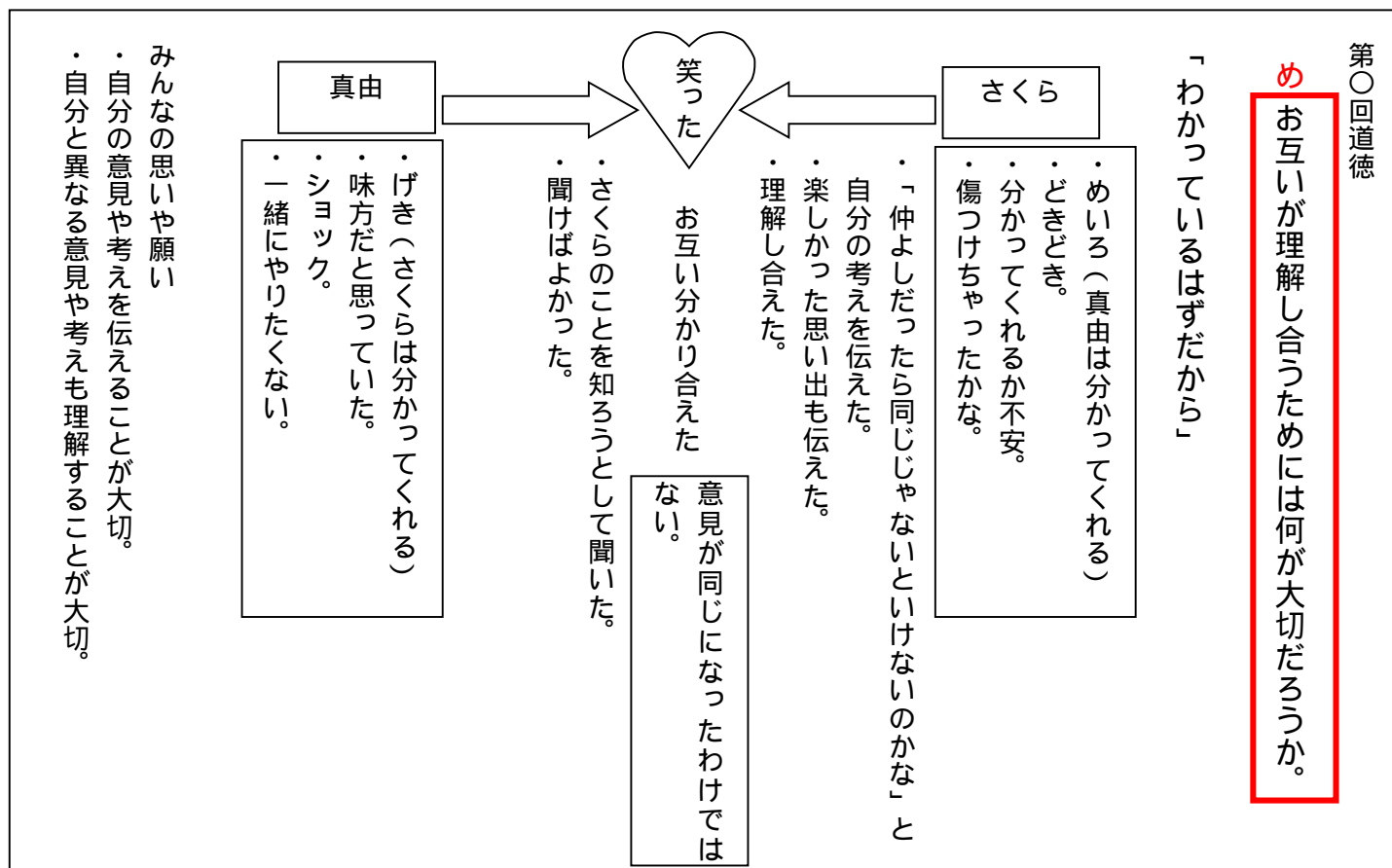
教師：場面絵、登場人物の絵、ワークシート

(3) 展開（ 発問 中心発問 補助発問 ）

学習活動と発問	時間	予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。友達と理解し合えなかった経験はありますか。そのとき、どうしますか。</p> <p>理解してもらおうとしたり、納得させようとしたりして、一人一人幸せになれるのかな。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・説明する。 ・納得させる。 ・そうっとしておく。 ・あやまる。 ・みんなが幸せになるにはどうすればいいのだろう。 	<p>人権月間との関連を図るために、「人権：人が一人一人幸せに生きるための権利」をおさえる。</p> <p>実生活の具体的場面を取り上げて話題を提起させることで、自分の一方的な理解や納得のさせ方を出させる。</p> <p>人権の学び「みんなが幸せに生きる権利」という内容を基に補助発問をすることで、学びをつなげた問題意識がもてるようにする。</p>
めあて：お互いが理解し合うためには何が大切だろうか。			
<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての感じ方・考え方を交流する。</p> <p>「真由は分かってくれるだろう」さくらは何を分かってくれたと思ったのですか。</p> <p>どきどきしたのはなぜ？</p> <p>二人は友達なんじゃないの。</p> <p>二人が顔を見合わせて笑えるようになったのはなぜですか。</p> <p>個人 5分 全体 7分</p>	2分 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらがめいろがいいってことを分かってくれたと思っていた。 ・真由が分かってくれているか不安。 ・傷つけちゃったかな。 ・友達だけど、分からなかった。 ・「仲よしだったら同じじゃないといけないの」と自分の考えを伝えたから。 ・真由との楽しかった思い出を伝えたから。 ・理解し合えたから。 	<p>さくらと真由の心情の移り変わりを板書で視覚化して、二人がお互いに理解し合っていく様子が分かるようにする。</p> <p>さくらも真由もお互いに「分かってくれたと思っていた」ことについて考えることで、自分の意見や考えを伝えなかったことに気付けるようにする。</p> <p>「さくらは自分の意見を伝えたのかな」と問うことで、伝えなくても分かってくれたと思っていたことを押さえる。</p> <p>中心発問について考えることで、自分の意見や考えを伝えることのよさについて深く考えられるようにする。</p> <p>全体での交流を通して自分と違った意見は、ワークシートに整理し、自分の考えと比較することで、多面</p>

友達でも意見が違ったら理解できるかな。			的・多角的に意見を捉えられるようにする。 補助発問を行うことで、互いに理解することのよさについて深く考えられるようにする。
4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてをもう一度考える。 お互いが理解し合うためには何が大切ですか。	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの考えてることを理解しないといけない。 ・自分の意見や考えを伝えることが大切。 ・自分と異なる意見や考えも理解することが大切。 	めあてをもう一度考えることで、道徳的価値の自覚を深められるようにする。
5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 「分かっているはず」の相手に対して、どのようなことを考えて生活していきたいですか。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も相手に分かってもらえるように伝えること大事にしていきたい。 ・自分と違う意見でも理解していきたい。 ・分かってくれると思って伝えなかったけど、しっかり伝えて相手のことも何でそう思ったのか聞いて考えるようにしたい。 	自分が「どのようなことを考えながら生活したいか」について考えることで、自分事として考えられるようにする。 児童の発表を聞くことで、その子のよさに触れられるようにする。

6 板書計画



道 徳 科 学 習 指 導 案

令和 年 月 日 () 第 校時 4 年 組 指導者 各担任

1 主題名 ほんとうの親切 内容項目 B - (7) 親切、思いやり

2 教材名 「心と心のあく手」(出典：小学道德 生きる力)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

中学年の「親切、思いやり」では「相手のことを思いやり、進んで親切にすること」をねらいとしている。この内容項目は、低学年の「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」を受け、さらに高学年の「誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にすること」につながるものである。中学年における「思いやり」は、相手の立場を優先して考えることが必要である。自分がどのように接し対処することが、相手のためになるのかをよく考え、言動へとつなげていくことが求められる。そのためには、相手の立場を押し量りながら親切な行為を自ら進んで行おうとしたり、時には相手のことを考え温かく見守ったりすることが大切になる。そこで、本当の親切とは何なのか、相手のためとはどういうことなのかを考えるを通して、思いやりの心や親切にする心情を育てたい。

(2) 児童の実態について(男子 名 女子 名 計 名)

省略

(3) 教材について

本教材は、「ぼく」は、重そうな荷物を持って歩いているおばあさんに会い、迷いながらも手を貸そうと声を掛ける。しかし、おばあさんに断られてしまう。残念に思いながら家に帰ると、母から「おばあさんは病気で体が不自由になり、歩く練習をしてここまで治ってきた」と聞き、おばあさんの本当の気持ちを知る。そして、次に会ったときは、おばあさんのために何ができるかを考え、思い悩んだ「ぼく」は、後ろから見守ることにした。この「ぼく」のとった行動を通して、思いやりとは何か、本当の親切とは何かを考えさせることのできる教材である。何かを貸してあげたり手伝ったりするなどの目に見える親切だけでなく、黙って温かく見守るといった目に見えない思いやりもあることを考えさせたい。

4 指導方針

本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつために

- ・導入では、足の不自由なおばあさんが重い荷物を持っているのを見たらどうするか問うことで、本時の内容を自分事として捉えられるようにする。
- ・前時で考えた「自分と違う意見でも理解する」ことを問うことで、問題意識がもてるようにする。
教材を通して、本時で扱う道徳的価値の追求を行うために
- ・中心発問では、ぼくが「このままでいいのだろうか」と考えた根拠について考えることで、相手の気持ちを考えることの大切さについて深く考えられるようにする。
- ・全体交流の場面では、「そっとおばあさんの後ろを歩いて行ったのはどんなことを考えたからか」と問うことで、相手の状況や気持ちを考えて行動することのよさについて深く考えられるようにする。
- ・交流を通して自分と違った意見は、ワークシートに整理し、自分の考えと比較することで、多面的・多角的に意見を捉えられるようにする。
- ・めあてについてもう一度考えることで、本当の親切は、相手の状況や気持ちを考えて行動することを全体で共有し、道徳的価値の自覚を深められるようにする。
本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために
- ・道徳的価値の自覚を促し、これからどのようなことを大切にして生活していきたいか問うことで、相手の状況や気持ちを考えることを大切にして生活できるような心情を育てる。

5 本時の展開

(1) ねらい

おばあさんに何ができるのか考えるぼく的心情を考えることを通して、見守ることも親切の一つであることに気付き、思いやりの心をもって親切にしようとする心情を育てる。

(2) 準備

教師：場面絵、登場人物の絵、ワークシート

(3) 展開（ 発問 中心発問 補助発問 ）

学習活動と発問	時間	予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 足の不自由なおばあさんが重い荷物を持っているのを見たらどうしますか。 助けて断られたらどうする。</p> <p>それは相手のことを考えているかな。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・助ける。 ・持ってあげる。 ・声を掛ける。 ・立ち去る。 ・放っておく。 ・何もしない。 <p>・相手は何をしてほしいのだろうか。</p>	<p>足の不自由なおばあさんが重い荷物を持っているのを見たらどうするか問うことで、本時の内容を自分事として捉えられるようにする。</p> <p>「断られたらどうするのか」と問うことで、行為の根拠や直接的な行為ではない親切についても考えられるようにする。</p> <p>前時で考えた「自分と違う意見でも理解する」という内容を基に補助発問をすることで、学びをつなげた問題意識がもてるようにする。</p>
めあて：「ほんとうの親切」とはどのようなことだろうか。			
<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。</p>	2分		
<p>3 教材を通して、道徳的価値についての感じ方・考え方を交流する。 ぼくが、声を掛けようか迷ったのはなぜですか。</p> <p>本当の気持ちってどんな気持ちですか。 ぼくが「このままでいいのだろうか」と考えたのはなぜでしょう。</p> <p>個人 5分 4人グループ 3分 全体 4分</p>	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんとの約束があったから。 ・知らないおばあさんだけど苦しうだから。 ・おばあさんの本当の気持ちを考えたから。 <ul style="list-style-type: none"> ・足を治そうと練習していたから断ったんだ。 ・心配だから。 ・苦しうだったから。 	<p>ぼくが、声を掛けようか迷った理由を問うことで、母との約束があって急いでいたことで、心が揺れ動いていることに気付かせるようにする。</p> <p>ぼくが「そうだったのか」と何に気付いたか問うことで、おばあさんの本当の気持ちに気付いたことが確認できるようにする。</p> <p>中心発問について考えることで、相手の気持ちを考えることの大切さについて深く考えられるようにする。</p> <p>グループでの交流の前に、自分の意見との違いについて質問したり考えたりしながら他者と交流するよう伝える。</p> <p>全体での交流を通して自分と違った意見は、ワークシートに整理し、自分の考えと比較することで、多面的・多角的に意見を捉えられるようにする。</p> <p>考えの根拠となる理由がはっきりしていない発言に対して、その根拠を問うことで、ねらいに迫れるよう</p>

<p>そつとおばあさんの後ろを歩いて行ったのはどんなことを考えたからでしょうか。</p> <p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてをもう一度考える。 「ほんとうの親切」とはどのようなことだろうか。</p>	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・心配だから荷物を持つこと以外にできることはないか考えたから。 ・おばあさんは歩けるようになりたいんだ。 ・心配だから見守っていようと考えたから。 ・何かしてあげればいいわけではない。 ・その人がしてほしいことを考えて行動すること。 	<p>にする。</p> <p>補助発問を行うことで、相手の状況について深く考えられるようにする。</p> <p>めあてをもう一度考えることで、道徳的価値の自覚を深められるようにする。</p>
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 これからどのような気持ちを大切にしていきたいですか。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ優しくするのではなく、相手が何をしてほしいか考える。 	<p>前時に相手を理解し尊重し、他の人の大切さに気付けたことを、振り返る前に触れることで、相手を理解し尊重する大切な存在だからこそ相手の立場に立って考えることの重要性に気付けるようにする。</p> <p>自分が「どのような気持ちを大切にしていきたいか」について考えることで、自分事として考えられるようにする。</p> <p>児童の発表を聞くことで、その子のよさに触れられるようにする。</p>

6 板書計画

第○回道徳

め 「ほんとうの親切」とはどのようなことだろうか。

「心と心のあく手」

挿 絵

声を掛けようか迷った

- ・お母さんとの約束があつたから。
- ・知らないおばあさんだけど苦しそうだから。

おばあさんの本当の気持ち

- ・足を治そうと練習していたから断つたんだ。

ぼくが「このままでいいのだろうか」と考えたのはなぜでしょう

- ・心配だから。
- ・苦しそうだったから。

そつとおばあさんの後ろを歩いて行ったのはどんなことを考えたからでしょうか。

- ・心配だから荷物を持つこと以外にできることはないか考えたから。
- ・おばあさんは歩けるようになりたいんだ。
- ・心配だから見守っていようと考えたから。

みんなの思いや願い

- ・相手が何がしてほしいか考える。
- ・相手の状況を考える。

第○回道徳

め 「ほんとうの親切」とはどのようなことだろうか。

「心と心のあく手」

挿 絵

声を掛けようか迷った

- ・お母さんとの約束があつたから。
- ・知らないおばあさんだけど苦しそうだから。

おばあさんの本当の気持ち

- ・足を治そうと練習していたから断つたんだ。

ぼくが「このままでいいのだろうか」と考えたのはなぜでしょう

- ・心配だから。
- ・苦しそうだったから。

そつとおばあさんの後ろを歩いて行ったのはどんなことを考えたからでしょうか。

- ・心配だから荷物を持つこと以外にできることはないか考えたから。
- ・おばあさんは歩けるようになりたいんだ。
- ・心配だから見守っていようと考えたから。

みんなの思いや願い

- ・相手が何がほしいか考える。
- ・相手の状況を考える。

道 徳 科 学 習 指 導 案

令和 年 月 日 () 第 校時 4 年 組 指導者 各担任

1 主題名 分けへだてなく 内容項目 C - (13) 公正、公平、社会正義

2 教材名 「いじりといじめ」(出典:小学道德 生きる力)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

相手の立場や態度で接し方を変えてはいけないことは分かっているが、実際には、相手に対して親しみを表したり、場の雰囲気을盛上げたりするつもりでのからかいや容姿、失敗を笑う場面などのいじりが見られる。いじりをしているほうには相手を貶めているつもりはなく、場合によってはされているほうにも貶められている自覚を感じていない場合もある。しかし、相手を貶めることは相手の尊厳を傷付けることである。いじりを何とも思わないのは、尊厳を傷付けることに対する感受性が低くなっているからである。例えばいじりであっても、相手を笑いものにすることは尊厳を傷付けることであり、いじめにつながる許されないことであると気付かせたい。

(2) 児童の実態について(男子 名 女子 名 計 名)

省略

(3) 教材について

本教材は、いじりに対して何とも思っていなかった主人公ゆうきが、いじりといじめの違いについて考え始めることを扱った教材である。失敗を笑ったことがよかったかどうか、面白かったら失敗を笑ってよいのか、相手が気にしている様子がなかったら笑ってよいのか、冗談で済ませてよいのかと、いじりに対して考えさせる視点が示されている。いじめの問題は本音を引き出しづらいので、教材を活用することで、ゆうきの立場を借りて本音を引き出し、自我関与を促すことができる。これらのことから、いじりはいじめ同様してはいけないことだけでなく、なぜいけないのかという理由について話し合うことで、いじりもいじめも相手の尊厳を傷付けていることという理解につながる。

4 指導方針

本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつために

- ・ 導入では、児童にとって身近な経験から、友達の間違えに対して笑ってしまったときの気持ちを問うことで、本時の内容を自分事として捉えられるようにする。
- ・ 前時で考えた「相手のことを自分のこととして考える」ことを問うことで、問題意識がもてるようにする。

教材を通して、本時で扱う道徳的価値の追求を行うために

- ・ 母とのやり取りの場面を取り上げることで、主人公がいじりについて軽く考えていたことを押さえられるようにする。
- ・ 主人公の心情の変化を問うことで、いじめ同様いじりもしてはいけないことに気付けるようにする。
- ・ 中心発問では、主人公が「いじりといじめは、どこがちがうのかな」とつぶやいた場面を取り上げ、主人公の思いに寄り添いながらいじりといじめの違いについて深く考えることで、いじりもいじめと同じであることに気付けるようにする。
- ・ 全体交流の場面では、「まさるくんが気にしていなければ、笑っていいのか」と問うことで、相手が誰であっても同じように接することについて深く考えられるようにする。
- ・ 交流を通して自分と違った意見は、ワークシートに整理し、自分の考えと比較することで、多面的・多角的に意見を捉えられるようにする。
- ・ めあてについてももう一度考えることで、相手を大切にし、誰にでも同じように接すること、いじりはいじめと同じで相手を傷付けていることを考え、道徳的価値の自覚を深められるようにする。

本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

- ・ 道徳的価値の自覚を促し、誰とでも仲よく生活するために、どのようなことに気を付けていきたいか

問うことで、「相手を大切にし、誰にでも同じように接すること」「いじりはいじめと同じで相手を傷つけていることを」を意識して生活できるような心情を育てる。

5 本時の展開

(1) ねらい

いじりといじめについて考えることを通して、いじりはいじめにつながることに気付き、誰に対しても分け隔てせず相手を大切にしようとする心情を育てる。

(2) 準備

教師：場面絵、登場人物の絵、ワークシート

(3) 展開（ 発問 中心発問 補助発問 ）

学習活動と発問	時間	予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 授業中、仲よしの友達が間違えたことに笑ってしまったことはありますか。 そのときどのような気持ちでしたか。</p> <p>それは相手のことを考えているのかな。 自分にできることを考えているかな。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ある。 ・ない。 ・面白かった。 ・友達も笑っていたからいいのかと思った。 ・考えていない。 ・自分にできることって何だろう。 	<p>実生活の具体的場面を取り上げて話題を提起することで、問題意識がもてるようにする。</p> <p>どのような気持ちで笑ったかを問うことで、面白いなど誰にでもある気持ちに触れられるようにする。</p> <p>笑われた子の気持ちに触れることで、誰もが楽しいわけではないことに気付けるようにする。</p> <p>前時で考えた「相手のことを自分のこととして考える」という内容を基に補助発問をすることで、学びをつなげた問題意識がもてるようにする。</p>
<p>めあて：誰とでも仲よくするにはどのようなことに気をつければよいだろうか。</p>			
<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。</p>	2分		
<p>3 教材を通して、道徳的価値についての感じ方・考え方を交流する。</p> <p>テレビを見ていて、母に「いじめじゃないの」と言われたときどう思いましたか。 まさるの間違いでみんなが笑ったときにドキッとしたのはなぜですか。</p> <p>ゆうきは何になやんだのでしょうか。</p> <p>個人 4分 4人グループ 3分 全体 5分</p> <p>まさるくんが気にしていなければ、笑っていいのでし</p>	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめという言葉で楽しい気持ちに水を差された。 ・いじめなのかなと思った。 ・でも・・・みんな笑っているし、本人も笑っているからいいかな。 ・まさるくんはどう思っているのだろう。 ・いじりは、その人を傷つけているかな。 ・いじりといじめは何が違うのだろうか。同じなのではないか。 ・相手が誰でも笑ってはいけない。 	<p>母とのやり取りの場面を取り上げることで、主人公がいじりについて軽く考えていたことを押さえられるようにする。</p> <p>主人公の心情の変化を問うことでいじりもしてはいけないことに気付けるようにする。</p> <p>中心発問について深く考えることで、いじりもいじめと同じであることに気付けるようにする。</p> <p>グループでの交流の前に、自分の意見との違いについて質問したり考えたりしながら他者と交流するよう伝える。</p> <p>全体での交流を通して自分と違っ</p>

<p>ようか。</p> <p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてをもう一度考える。誰とでも仲よくするにはどのようなことに気をつければよいだろうか。</p>	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が笑っていてもやってはいけないことはやってはいけない。 ・相手のことを大切にすること。 ・相手が誰でも同じように接すること。 ・傷つくようなことをしないこと。 	<p>た意見は、ワークシートに整理し、自分の考えと比較することで、多面的・多角的に意見を捉えられるようにする。</p> <p>補助発問を行うことで、相手が誰であっても同じように接することについて深く考えられるようにする。めあてをもう一度考えることで、道徳的価値の自覚を深められるようにする。</p>
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。誰とでも仲よく生活するために、どのようなことを大切にしていきたいですか。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が誰でもどんな状況でも傷つくようなことはやらない。 ・いじりはいじめにつながるからしない。 	<p>前時までの振り返りの内容を、振り返る前に触れることで、他の人を理解し、思いやりの気持ちをもって、誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することができるようにする。</p> <p>自分が「誰とでも仲よく生活するために、どのようなことに気を付けたいか」について考えることで、自分事として考えられるようにする。児童の発表を聞くことで、その子のよさに触れられるようにする。</p>

6 板書計画

「ゆうきは、何になやんだのでしょうか。」

・まさるくんはどう思っているのだろう。

・いじりは、その人を傷つけているかな。

・いじりといじめは何がちがうのだろうか。同じなのではないか。

・相手が誰でも笑ってはいけない。

・相手が笑っていてもやってはいけないことはやってはいけない。

みんなの思いや願い

・相手のことを大切にすること。

・相手が誰であっても同じように接すること。

・相手が傷つくようなことはしないこと。

まさるの間違えでみんなが笑ったとき

- ・どきつとした。
- ・いじめなのかなと思った。
- ・みんな笑っているし、本人も笑っているからいいかな。

挿 絵

母に「いじめじゃないの」と言われたとき

- ・いじめという言葉で楽しい気持ちに水を差された。
- ・たいしたことない。

め

誰とでも仲よくするにはどのようなことに気を付ければよいだろうか。

「いじりといじめ」

道 徳 科 学 習 指 導 案

令和 年 月 日 () 第 校時 6 年 組 指導者 各担任

1 主題名 理解し合うたいせつさ 内容項目 B - (11) 相互理解、寛容

2 教材名 「『ダン』をどうする？」(出典：小学道徳 生きる力)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人の考えや意見は多様であり、それが豊かな社会を作る原動力にもなる。そのためには、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分とは異なる意見や立場も広い心で受け止め相手への理解を深め、自らを高めていくことができる。このように、寛容さと謙虚さが一体のものとなったときに、広い心が生まれ、それは人間関係を潤滑にするものとなる。しかし、私たちは、自分の立場を守るため、つい他人の失敗や過ちを一方的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど、自己本位に陥りやすい弱さをもっている。成長の途上にあり、至らなさをもっていることなどに触れ、自分を謙虚に見ようとする心情について考えさせることが大切である。多様な人間が共によりよく生き、創造的で建設的な社会を創っていくために、相手から学ぶ姿勢を常にもち、自分と異なる意見や立場を受け止め、自分と異なる意見や立場を尊重しようとする態度を養いたい。

(2) 児童の実態について(男子 名 女子 名 計 名)

省略

(3) 教材について

本教材は、目の見えない犬「ダン」を拾った団地の子供たちが、団地で飼って世話をしたいと自治会の役員に申し出る。最初は自治会のきまりを重視するあまり、受け入れることが困難であった役員たちも、他者の意見も謙虚に受け入れながら、自分たちの考えや意見を伝えようとする子供たちの真摯な姿に、考え直そうとするのである。子供たちの言動によって変容する自治会の役員の気持ちや思いを考えることを通して、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重しながら、自分の考えや意見を相手に伝えることの大切さに気付かせ、行動に移そうとする態度を養うのにふさわしい内容である。

4 指導方針

本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつために

- ・ 導入では、修学旅行の班行動の計画を立てるとき意見が合わなかったときのことを問うことで、本時の内容を自分事として捉えられるようにする。
- ・ 人権の学びについての補助発問をすることで、学びを繋げた問題意識がもてるようにする。
教材を通して、本時で扱う道徳的価値の追求を行うために
- ・ 子供たちと役員さんの心情を板書で視覚化して、互いが理解し合っていく様子が分かるようにする。
- ・ 最初互いに思っていたことを問うことで、それぞれが相手のことを理解せずに言っていることが分かるようにする。
- ・ なぜ決まりがあるのかを問うことで、周囲の人が気持ちよく生活するためということが理解できるようにする。
- ・ 中心発問では、役員さんは、子供たちに何を教えられた気がしたのか考えることで、年齢関係なく互いが理解し合おうとして意見を言ったり聞いたりしたことの大切さに気付けるようにする。
- ・ めあてについてもう一度考えることで、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することのよさを全体で共有し、道徳的価値の自覚を深められるようにする。
本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために
- ・ 道徳的価値の自覚を促し、互いの意見や考えが異なるとき、どのようなことを意識して生活していきたいか問うことで、広い心で、自分と異なる意見や立場を尊重しながら、自分の意見や考えを伝えることを意識して生活しようとする態度を養う。

5 本時の展開

(1) ねらい

団地の子供たちと話し合う自治会の役員の気持ちを考えることを通して、自分の考えや意見を相手に伝えるときに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重しようとする態度を養う。

(2) 準備

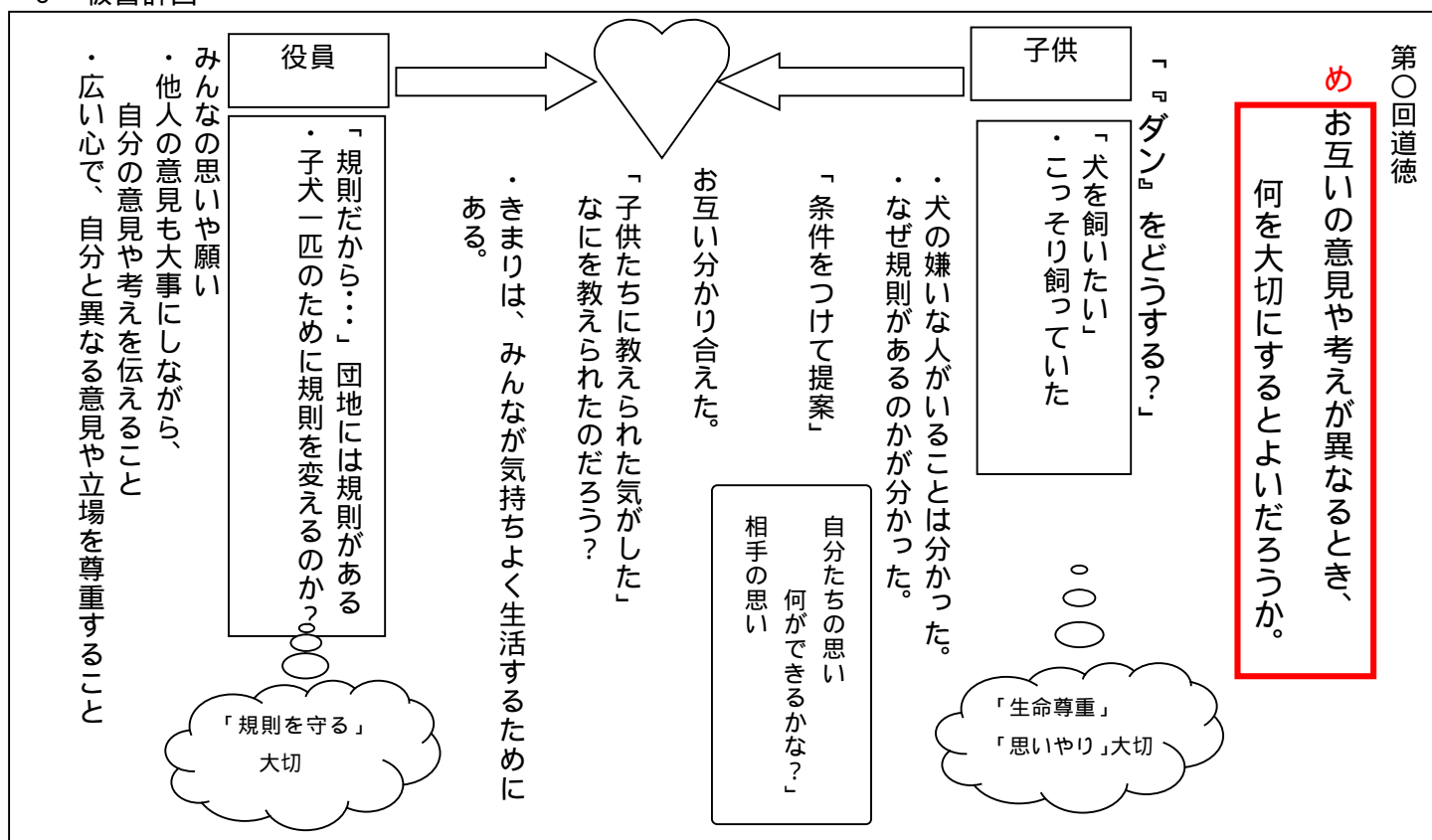
教師：場面絵、登場人物の絵、ワークシート

(3) 展開（ 発問 中心発問 補助発問 ）

学習活動と発問	時間	予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 修学旅行で班行動の計画を立てるとき意見が合わなかったことはありますか。</p> <p>そのようなときどうしますか。</p> <p>我慢をして、一人一人幸せになれるのかな。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ある。 ・ない。 ・行きたい場所が違ってけんかになった。 ・我慢した。 ・話し合った。 ・みんなが幸せになるにはどうすればいいのだろう。 	<p>人権月間との関連を図るために、「人権：人が一人一人幸せに生きる権利」を押さえる。 実生活の具体的場面を取り上げて話題を提起する。 「そのようなときどうするか」を問うことで、自分本意になっていることに気付けるようにする。 人権の学び「みんなが幸せに生きる権利」という内容を基に補助発問をすることで、学びをつなげた問題意識がもてるようにする。</p>
めあて：お互いの意見や考えが異なるとき、何を大切にするとよいだろうか。			
<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての感じ方・考え方を交流する。 最初、子供たちと役員さんはそれぞれどう思っていましたか。</p> <p>なぜ犬を飼ってはいけない決まりがあるのだろうか。</p> <p>役員さんは、子供たちに何を教えられた気がしたのでしょうか。</p> <p>個人 5分 全体 7分</p>	2分 20分	<p>子供たち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬を飼いたい。 ・こっそり飼っていた。 <p>役員さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則だから…。 ・犬が嫌いな人がいる。 ・子犬一匹のために規則を変えるのか。 ・犬のにおいが嫌いな人がいるから。 ・犬の吠える声が怖い人がいるから。 ・みんなが気持ちよく生活するため。 ・相手の話をじっくり聞くこと。 ・自分たちの意見や考えをしっかり伝えること。 ・自分たちとは違う意見や考えを理解すること。 ・他の人たちのことを考えること。 ・謙虚に相手の話を受け止め、自分たちの意見を言うこと。 	<p>子供たちと役員さんの心情を板書で視覚化して、お互いが理解し合っていく様子が分かるようにする。 お互いが最初思っていたことを問うことで、それぞれが相手のことを理解せずに言っていることが分かるようにする。</p> <p>なぜ決まりがあるのかを問うことで、周囲の人の思いが理解できるようにする。</p> <p>中心発問について話し合うことで、年齢関係なく、互いに理解し合おうとして意見を言ったり聞いたりしたことについて、深く考えられるようにする。</p>

自分たちの思いだけ伝えればいいのか。		・相手の話も聞いて理解しなければならない。	自分たちの思いだけ伝えることを問うことで、自分たちの思いだけ伝えるのでは、相手が納得できないことに気付けるようにする。
自分たちは我慢して、他の人の考えを尊重すればいいのですか。		・お互いに納得のいくように理解し合わなければならない。	自分たちは我慢して相手が納得すればいいのか問うことで、互いに理解し合って納得することのよさについて考えられるようにする。
4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてをもう一度考える。 お互いの意見や考えが異なるとき、何を大切にするとよいだろうか。	8分	・相手のことを理解し、自分の意見や考えを相手に伝えること。 ・謙虚に相手の話を受け止め、自分たちの意見を言うこと。 ・広い心で、自分と異なる意見や立場を尊重すること。	めあてについてもう一度考えることで、相手のことを理解することの大切さ、相手のことを考えて意見を言うことの大切さ、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することについて考えられるようにする。
5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 お互いの意見や考えが異なるとき、どのようなことを意識して生活していきたいのですか。	10分	・自分の意見や考えを相手に伝えたい。 ・広い心で、自分と異なる意見や立場を尊重したい。 ・広い心で、自分と異なる意見や立場を尊重しながら、自分の意見や考えを伝えたい。	互いの意見や考えが異なるとき、どのようなことを意識して生活していきたいか問うことで、自分事として考えられるようにする。 児童の発表を聞くことで、その子のよさに触れられるようにする。

6 板書計画



道徳科学習指導案

令和 年 月 日 () 第 校時 6 年 組 指導者 各担任

1 主題名 思いやりの心 内容項目 B - (7) 親切、思いやり

2 教材名 「心づかいと思いやり」(出典：小学道徳 生きる力)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人が人を思いやるということは、相手の立場になって物事を考えるということである。思いやりは、自身の身の回りにおいて日々もつべき心であり、かつ、なすべき行為である。よく知っている特定の人だけでなく折に触れて接する様々な人に対しても、思いやりの心が大切である。そして、思いやりは、元来、結果の損得を期待しない無私無償の愛であり、また、それが社会生活を営む人間にとって規則や契約を超越したところに存在することに価値がある。そして、思いやりは勇気のある行為と言える。自分が相手の立場になったとき、自分だったらどうなるかを相手に合わせて常に考える姿勢を培いたい。

(2) 児童の実態について(男子 名 女子 名 計 名)

省略

(3) 教材について

本教材は、詩「行為の意味」で心と心づかい、思いと思いやりの違いとは、心や思いは内面的なもので見えないが、「心づかいや思いやり」は、思っていることを行為として見える形にすることを扱っている。思いを思いやりに変えるという視点で、実際に、車椅子の人が段差の前で困っている場面でどうするか、考えさせる内容となっている。児童が、よいことと分かっているが、実際に演じてみると、なかなかうまくいかないことについて、どうすればよりよい思いやりのある行動がとれるのかみんなで話し合いたい。

4 指導方針

本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつために

- ・導入では、「思いやり」のある行動はどんなものか問うことで、行動の根拠について考えながら授業に入れるようにする。
- ・前時で考えた「相手のことを理解し、異なる意見や立場を尊重する」ことを問うことで、問題意識がもてるようにする。
教材を通して、本時で扱う道徳的価値の追求を行うために
- ・心を心づかいに、思いを思いやりにするにはどうしたらよいか問うことで、行動することの大切さに気付けるようにする。
- ・中心発問では、車椅子の人が段差の前で困っている場面を提示し、自分ならどうするか考えさせることで、相手のことを考えた思いやりは様々であることに気付かせるようにする。
- ・助けてあげたのに断られたらどうするか考えることで、相手のことを考えることの大切さに気付けるようにする。
- ・めあてについてもう一度考えることで、相手の立場に立って親切にすること、相手が何を望んでいるか考えて行動することのよさを全体で共有し、道徳的価値の自覚を深められるようにする。
本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために
- ・これから、どのようなことを意識して生活していきたいか問うことで、誰に対しても思いやりの心をもって接すること、相手の立場に立って親切にすること、相手が何を望んでいるか考えて行動しようとする態度を養えるようにする。

5 本時の展開

(1) ねらい

思いを思いやりに変えるにはどうしたらよいか考えることを通して、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って行為をしていこうとする態度を養う。

(2) 準備

教師：場面絵、登場人物の絵、ワークシート

(3) 展開（ 発問 中心発問 補助発問 ）

学習活動と発問	時間	予想される児童の反応	指導上の留意点
1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 「思いやり」のある行動ってどんなものですか。 助けたりゆずったりして断られたらどうしますか。 それは相手のことを考えているのでしょうか。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・助ける。 ・ゆずる。 ・優しく接する。 ・立ち去る。 ・放っておく。 ・相手は何をしてほしいのだろうか。 	<p>「思いやり」のある行動はどんなものか問うことで、行動の根拠について考えながら授業に入れるようにする。</p> <p>「断られたらどうするか」を問うことにより、本時に対する意欲を高める。</p> <p>前時で考えた「相手のことを理解し、異なる意見や立場を尊重する」という内容を基に補助発問をすることで、学びをつなげた問題意識がもてるようにする。</p>
めあて：「思いやり」のある行動をするには、何が大切だろうか。			
2 教科書の教材文の範読を聞き、内容をつかむ。 思いと思いやりの違いは何ですか。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・思いは、思っていることが見えない。 ・思いやりは、思っていることが行動に表れることで見える。 	<p>思いと思いやりの違いについて理解できるようにする。</p> <p>心を心づかいに、思いを思いやりにするにはどうしたらよいか問いかけることで、行動することの大切さに気付けるようにする。</p>
3 教材を通して、道徳的な問題を探究する。 車椅子の人が段差の前で困っています。あなたならどうしますか。 個人 5分 全体 12分 せっかく助けようとしたのに断られたらどうしますか。	17分	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに行って押してあげる。 ・助けてあげる。 ・声を掛ける。 ・その場を立ち去る。 ・見守る。 ・他にできることはないか考える。 	<p>中心発問で、車椅子の人が段差の前で困っている場面を提示し、自分ならどうするか考えさせることで、自分事として問題を考えていけるようにする。</p> <p>「声を掛ける」など、すぐに手助けをしない意見に対して、理由を問うことで、相手の困っていることを知ってから行為に移すことに触れられるようにする。</p> <p>断られたらどうするか考えることを通して、相手のことを考えることの大切さに気付けるようにする。</p> <p>「その場を立ち去る」という意見に対して、最初助けようとしていた思いについて触れたり、「見守る」と</p>

4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてをもう一度考える。 「思いやり」のある行動をするには、何が大切だろうか。	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手がしてほしいことを考えて行動する。 ・ 相手の立場に立って自分ができることをしてあげる。 ・ 相手のことを考えた行動をする。 	<p>いう意見に対して、断られているのにその必要があるのか問うたりすることで、相手の思いを考えることの大切さに近付けるようにする。</p> <p>めあてについてもう一度考えることで、相手の立場に立って親切にすること、相手が何を望んでいるか考えて行動することのよさを全体で共有し、道徳的価値の自覚を深められるようにする。</p>
5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 これから、どのようなことを意識して生活していきたいですか。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰に対しても思いやりの心をもって接する。 ・ 相手の立場に立って親切にする。 ・ 相手が何を望んでいるか考えて行動する。 	<p>前時に相手を理解し尊重し、他の人の大切さに気付けたことを、振り返る前に触れることで、相手を理解し尊重する大切な存在だからこそ相手の立場に立って考えることの重要性に気付けるようにする。</p> <p>これからの生活について問うことで、自分事として考えられるようにする。</p> <p>児童の発表を聞くことで、その子のよさに触れられるようにする。</p>

6 板書計画

みんなの思いや願い

- ・ 相手が望んでいることを行動に移す。
- ・ 相手の立場になって考え行動する。

なぜそのような行動をするの？

- ・ 心配だから。
- ・ 何かあったとき助けられるから。
- ・ 他にできることはないか考える。

断られたらどうする？

- ・ 立ち去る。
- ・ 見守る。

あなたならどうする？

- ・ 押す。
- ・ 助ける。
- ・ 声を掛ける。

場面絵

見えない 見える(行為)

思い 思いやり

心 心づかい

「心づかいと思いやり」

め 「思いやり」のある行動をするには、
何が大切だろうか。

第〇回道徳

道 徳 科 学 習 指 導 案

令和 年 月 日 () 第 校時 6 年 組 指導者 各担任

1 主題名 いじめをたち切る正義 内容項目 C - (13) 公正、公平、社会正義

2 教材名 「わたしのせいじゃない」(出典:小学道德 生きる力)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人間は誰しも社会正義に憧れ、それを実現しようとする気持ちや思いはもっている。しかし、自分と異なる考え方や感じ方、多数ではない立場や意見などに対し偏った見方をしたり、自分よりも弱い存在があることで誤った優越感を抱きたいがために偏った接し方をしたりする弱さをもっている。弱さをもった子供たちが集団となったとき、個人を傷付けるような行為となることがある。自分自身の考えをしっかりとつ、だめだと分かっている周りの強い言動に流されないで自分の意志を強くもつ、学校や関係機関に助けを求めることに躊躇しないなど、周囲の雰囲気や人間関係に流されない態度を育てるようにしたい。

(2) 児童の実態について(男子 名 女子 名 計 名)

省略

(3) 教材について

本教材は、海外の絵本によるいじめ問題を真正面から見据えた教材である。一人の子供がいじめられ泣いている。14人という集団からいじめられている。しかし、いじめている本人たちは「自分のせいじゃない」と言っていじめていることを否定したり、正当化したりしている。さらには、傍観者であるというふりをしていじめに加担していないことを強調している子供もいる。いじめの態様をよく表している教材である。いじめの根にある「社会正義」に目を向け、傍観者がなぜそのような立場になってしまうのか考えられる。いじめはだめだと分かっていると言えないことからいじめが続いていくことに気付かせ、強い意志をもっていじめを断ち切れるようにしていきたい。

4 指導方針

本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつために

- ・ いじめの原因を考えさせることで、様々な原因があることに目を向けられるようにする。
- ・ 前時で考えた「相手のことを親身に考える」ことや「自分にできること」を問うことで、問題意識がもてるようにする。

教材を通して、本時で扱う道徳的価値の追求を行うために

- ・ いじめの原因はどのような気持ちがあるからかを問うことで、様々な立場に着目し、問題解決的な学習ができるようにする。
- ・ 中心発問では、いじめが起きないようにするにはどのような気持ちが必要かを考えることで、普段から意識したい「優しい」「責めない」「思いやり」「みんな平等に接する」「よさを認める」気持ちに気付けるようにする。
- ・ 補助発問では、見ていた人も全員そのような気持ちになかったのかを問うことで、優しい気持ちなどがあっても注意できない気持ちにも目を向けられるようにする。
- ・ いじめは絶対にいけないことに気付かせ、相手のことを考えて、注意する気持ちをもてるようにする。
- ・ めあてについてもう一度考えることで、普段から平等に接することや強い意志でいじめを断ち切ることの大切さを全体で共有し、道徳的価値の自覚を深められるようにする。

本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

- ・ 「いじめを断ち切るためにできること」を問うことで、誰とでも平等に接すること、よさを認めたり優しく接したりしようとする態度を養えるようにする。

5 本時の展開

(1) ねらい

「わたしのせいじゃない」と言っている子どもたちの考え方から、いじめに対する傍観者としての無責任な気持ちがいじめを生んでいることを考えることを通して、いじめを起こさないための気持ちに目を向け、いじめを起こさせない態度を養う。

(2) 準備

教師：場面絵、登場人物の絵、ワークシート

(3) 展開（ 発問 中心発問 補助発問 ）

学習活動と発問	時間	予想される児童の反応	指導上の留意点
1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 いじめは、どうして起こるのでしょうか。 それは相手のことを考えているのかな。 自分にできることを考えているのかな。	5分	<ul style="list-style-type: none"> 相手に何かされた。 嫌いという気持ち。 差別や偏見。 考えていない。 自分にできることは何だろう。 	<p>いじめの原因を考えさせることで、様々な原因があることに目を向けられるようにする。</p> <p>前時で考えた「相手のことを親身に考える」ことや「自分にできること」という内容を基に補助発問をすることで、学びをつなげた問題意識がもてるようにする。</p>
めあて：いじめを起こさせないために大切なことは何だろう。			
2 教科書の教材文の範読を聞く。	2分		
3 教材を通して、道徳的な問題を探究する。 いじめの原因は、どのような気持ちがあるからでしょうか。 いじめを起こさないために、どのような気持ちが必要でしょうか。 個人 5分 4人グループ 3分 全体 7分	20分	<ul style="list-style-type: none"> 嫌だ。気に入らない。 イライラする気持ち。 差別する気持ち。 少しだけだからいい。 自分だけじゃないからいい。 自分は関係ない。 自分は知らない。 関わりたくない。 優しい気持ち。 責めない気持ち。 思いやりの気持ち。 みんな平等に接する気持ち。 よさを認める気持ち。 	<p>いじめの原因となる気持ちを問うことで、様々な立場でどのような気持ちがあるのか確認できるようにする。</p> <p>立場を分けて板書し、視覚化することで、立場ごとに問題解決できるようにする。</p> <p>共通している気持ちについて問うことで、相手のことを考えていないことに気付かせるようにする。</p> <p>中心発問について考えることで、普段から意識したい「優しい」「責めない」「思いやり」「みんな平等に接する」「よさを認める」気持ちに気付けるようにする。</p> <p>グループでの交流の前に、自分の意見と似ているか似ていないかを考えながら他者と交流するよう伝え、多面的・多角的に意見を捉えられるようにする。</p> <p>いじめが起きないようにするには</p>

<p>見ていた人も全員そのような気持ちがなかったのでしょうか。</p> <p>どのような気持ちからいじめを注意できなかったのだろう。</p> <p>自分がいじめられなければ注意しなくていいのかな。</p>	<p>8分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ あったけど、注意できなかった。 ・ 自分もいじめられると思ってしまった。 ・ 自分は関係ないと思ってしまった。 ・ 自分も巻き込まれたくないと思ってしまった。 ・ 自分ではなくてもいじめは絶対にしてはいけない。 	<p>どのような気持ちが大切かを問うことで、普段から意識したい気持ちを出せるようにする。</p> <p>補助発問を行うことで、優しい気持ちなどがあっても注意できない気持ちにも目を向けられるようにする。</p> <p>自分がいじめの対象でなければ注意しなくてよいのかを問うことで、いじめは絶対にいけないことに気付かせ、相手のことを考えて、注意する気持ちをもてるようにする。</p> <p>めあてについてもう一度考えることで、普段から平等に接することや強い意志でいじめを断ち切ることの大切さを全体で共有し、道徳的価値の自覚を深められるようにする。</p> <p>いじめを絶対に許さないという気持ちを理解した上で、大切にすべき行為について問うことで、いじめを断ち切るために社会正義を貫こうとする態度を養う。</p>
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p> <p>学んだことで、自分に必要なことは何だろうか。</p>	<p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 起こさないように、誰とでも平等に接する。 ・ よさを認めたり、優しく接したりする。 ・ いじめている人を見たら、注意したり、先生に言ったりして解決する。 	<p>前時までの振り返りの内容を、振り返る前に触れることで、他の人を理解し、思いやりの気持ちをもって、誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することができるようにする。</p> <p>「学んだことで、自分に必要なことは何か」問うことで、起こさないためにできること、起きたときにできることについて考えられるようにする。</p> <p>児童の発表を聞くことで、その子のよさに触れられるようにする。</p>

め いじめを起こさせないために大切なことは

何だろうか。

「わたしのせいじゃない」

いじめ

たたいた

知って
いたけど

自分は
関係ない

- ・嫌だ。気に入らない。
- ・イライラする気持ち。
- ・差別する気持ち。
- ・少しだけだからいい。
- ・自分だけじゃないからいい。
- ・関わりたくない。

- ・自分は関係ない。
- ・自分は知らない。

いじめを起こさないために、どのような
気持ちが必要でしょうか。

- ・優しくする
- ・責めない
- ・思いやり
- ・平等
- ・よさを認める

全員がこういう気持ちがあったの？

・あった。

じゃあ、何でいじめが起きたの？

- ・注意できなかった。

どういう気持ちがあったから注意できなかったの？

- ・自分もいじめられると思ってしまった。

自分がいじめられなければ注意しなくていいの？

- ・いじめは絶対にしてはいけない。

みんなの思いや願い

起こさない
なくす

- ・起こさないように、誰とでも平等に接する。
- ・よさを認めたり、優しく接したりする。
- ・いじめている人を見たら、注意したり、先生に言ったりして解決する。